

留学報告書 2016 年 7 月

University of Oxford, Department of Computer Science

五十嵐歩美

こんにちは。オックスフォード大学に留学している五十嵐歩美です。こちらはようやく天候が夏らしくなり、気持ちのよい季節になってきました（何と 6 月下旬までコートをはおる人を見かけるほど寒かったです）。前回 3 月のレポートでは、2 年目前半の状況について報告しました。今回も時系列で近況を報告していきたいと思います。

- 2016 年 4 月

4 月の前半は、ECAI というヨーロッパの人工知能系の学会に、1~3 月にかけてまとめていた論文 “On the complexity of cooperative games on cycle-complete graphs” を提出しました。Cycle-complete graph という特別なグラフにおける、グラフの各頂点の重要性指数の計算複雑度を解析しました。査読者の評価はまずまずだったものの、結果は残念ながら short paper で受理になりました。4 月の後半は、ひどい風邪をひいてしまったため、せつせと自宅で 5 月のシンガポールの学会準備をしていました。（オックスフォードは相対湿度が低いため、乾燥しているように感じます。そのせいかイギリスに来てから喉からくる風邪をよくひくようになりました。これからイギリスに長期で住む方はマスクを持参することをお勧めします。）

- 2016 年 5 月

AAMAS2016 に参加するために、シンガポールに行きました。初日の COOPMAS という Workshop で、上記の論文を発表して、最終日に指導教員との共同研究を発表しました。博士課程一年の友人の論文が、Best paper award 候補に推薦され、惜しくも賞は逃したものの、とても素晴らしい発表で、彼も含め本当に素晴らしい同僚達に恵まれているんだなと実感しました。学会以外には、中華街などを皆で散策しました。5 月の後半から 6 月の前半は、立て続けに査読をいくつか依頼されて、2 週間ほどそれに時間を費やしました。

- 2016 年 6 月

COMSOC 2016 (Sixth International Workshop on Computational Social Choice) に参加するために、Toulouse に行きました。各口頭発表のレベルは非常に高く、中でも単峰型順序のグラフ・多面体的特徴付けの話しが個人的に面白かったです。ちなみに、最近 Handbook of Computational Social Choice (http://www.cambridge.org/download_file/898428) という本がでました。パスワードは cam1CSC です。Arrow の不可能性定理の別証明と Introduction to Introduction だけ読みましたが、とても読みやすく書かれています。私自身は会議の

後半で、ポスター発表をしました。University of Glasgow の Manlove さんをはじめとする安定マッチングの研究者に興味を持ってもらえて良かったです。また今自分が取り組んでいる研究トピックである Group Activity Selection Problems の関連研究をしている方々とも議論ができて実りの多い3日間でした。



図1 COMSOC での集合写真

研究室のメンバーそれぞれ出張が多いため、中々全員で集まる機会がありませんが、先日奇跡的に集合写真を撮りました。左の写真の真ん中の女性が指導教員の Edith で、その右にいるのが私です。右の写真は、Edith が出張中の間に皆で punting をしたときの写真です。



以前は1人でもくもくと研究をすることが多かったのですが、最近は周りの博士課程の友達やポスドクの方との共同研究をするようになってきました。研究室の同僚達や指導教員のおかげで、だんだんとコミュニケーションの取り方も掴めてきた感じがします。少し脱線しますが、研究の進め方などに関して、役に立った動画やハウツー本を下記に載せます。

- 研究の進め方: <https://www.youtube.com/watch?v=g3dkRsTqdDA>
- 英語論文の書き方: <http://www.springer.com/us/book/9781441979223>
- 英語の口頭発表: <http://www.springer.com/us/book/9781441965912>

時間の流れは早いもので、去年はまだまだ留学したばかりの気分でしたが、今はもっばらどのように博士論文をまとめるかや、博士後の就職先について考えています。今のところ、少なくともあと2本論文を書いて、1年半後（2018年3月あたり）を目標に博士号を取得し、その後おそらく欧米でポスドクとして数年研究したいと考えています。

とりとめのない報告書になってしまいましたが、以上近況報告です。